

## 2024 事故防止・経験交流集会 実施報告

教育遭難対策委員長 伊東春正（かがりび山の会）

教育遭難対策委員会主催で実施した事故防止・経験交流集会を報告します。

(1) 日程：2024年11月16日（土） 10時～16時30分

(2) 場所：船橋市塚田公民館

(3) 参加者：7会から15名

（ふわくハイキングサークル、ちば山の会、かがりび山の会、岳人あびこ、東葛山の会、千葉こまくさハイキングクラブ、松戸山の会）

(4) 実施内容

### ① 事故報告

今年度の事故は9件でその内クライミング事故4件が特徴的である。

全国連盟の昨年の事故件数は過去最高であり、今年も同等の件数が発生している。

第21回山岳遭難事故調査報告書では、50代～70代は女性事故数が男性より大きく上回っていることが報告されている。

### ② 事故事例報告

7月の全国連遭難対策担当者会議で報告された、広島県の十方山滑落死亡事故を取り上げた。

男性4人女性2人のパーティーで、行程管理のまずさから下山が遅れ、道迷いの後、斜め下方に張ったロープを伝って降りている最中に転び、ロープを放して滑落して死亡している。

山行計画書に主要場所の到着予定時刻の記述がない、道迷いで崖を強引に降りている、ロープを手がかりにした下降ではセルフビレイをとっていない、事故後二つのチームに分かれて下山しているなど、問題の多い山行であった。

### ③ 県連7点セットの検証結果報告と安全確保のロープワーク術

従来の県連7点セット（10mロープ、120cmスリング、60cmスリング×2、カラビナ×2、安全環付きカラビナ）に関して登山講習や最新登山技術書を参考に見直し、教遭委員会で検証した。

その結果、山行メンバー全員が携帯すべき装備6点（120cmもしくは150cmスリング、60cmスリング×2、カラビナ×2、安全環付きカラビナ）とさらにリーダーが携帯すべき装備4点（20mロープ、120cmスリング、安全環付きカラビナ、グローブ）を定めた。

また、これら装備の使い方とそれに伴うロープワークを「安全確保のロープワーク術」としてまとめたので紹介した。

### ④ フリー・ディスカッション

3つのグループに分かれディスカッションを行った。

□リーダー育成と新人教育の取り組み

・どの会も座学と実技を年間計画を立てて実施している。

- ・リーダー研修は、やっている会とやっていない会とがある。  
やっている会ではテキストを作成して実施している。

#### □山の会としての個人情報保護を考える

- ・総会資料に個人情報管理規定を記載している会と、これから管理規定を整備しようとする会もある。  
規定類が何もない会が2会ある。
- ・規定類はないが、山行時に緊急連絡先、病歴、アレルギーなどの情報を記載した個人表を携帯するよう指導している会がある。
- ・HPに掲載する写真は、本人たちの了解がとれたものを載せている。
- ・個人情報管理規定がないと会員外から緊急連絡先取得時に、どういった管理をしているのか示せない。

#### □会組織のあり方と担当役員交代の実態

- ・会組織は組織構成の大小はあるが、組織体系はどの会も同様である。
- ・会の運営を全員で分担している会では、移行はスムーズにできている。  
一部の人が担当している会では、次の引継ぎが問題となっている。
- ・任期は2年が多いが、会長や事務局長などの重要ポストの交代はもめることが多く、運営委員会で山行経験などで推薦して決めているが、最終的には人格と人間性で引き受けてもらっている。

#### (5)実施後の参加者の感想

- ・充実した内容だったのでもっと多くの参加が望まれる。
- ・女性の事故が多いとのことだが、件数だけでなく男女の山行回数を加味して比較すべき。
- ・事件事例研究は千葉県連の事故を取り上げてほしい。

などの意見が寄せられた。



安全確保のロープワーク術



フリー・ディスカッション

以上